

平成 30 年 7 月 17 日

二戸市と(株)小西美術工藝社との地方創生の連携に関する 協定締結および新しい事業展開に関する発表について (第 2 報)



日光東照宮陽明門の社内検査を行う(株)小西美術工藝社デービッド・アトキンソン社長

二戸市では、二戸のまちづくりの実現、地方創生による地域の活性化を進め、地域の発展を目指し、(株)小西美術工藝社と地方創生の連携協定を締結することとなりました。

なお、今回の連携協定の中で(株)小西美術工藝社の二戸市内における新しい事業展開に関する発表がありますので、ぜひ取材いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 平成 30 年 7 月 26 日 (木) 午後 1 時 30 分～
2. 場 所 二戸市役所 2 階会議室
3. 締結者 二戸市長 藤原 淳
株式会社小西美術工藝社 代表取締役社長 デービッド・アトキンソン



<問い合わせ先>

二戸市総務政策部長 田中館 淳一

Tel. 0195-23-3111 (内線 610)

(株)小西美術工藝社二戸支社長 福田 達胤

Tel. 090-7072-0625

(別紙)

協定の経緯、株式会社小西美術工藝社について

二戸市は、平成 28 年 1 月に「第二次二戸市総合計画」を策定し、現在その実現に向けて、積極的に取り組んでいます。また、人口減少の抑制と地域経済の好循環を図るため、地方創生事業への取り組みを行っていくうえで必要な「二戸市まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、「第二次二戸市総合計画」と併せて事業展開を行っています。

当市は生漆の生産量が国内の約 7 割を占める日本一の産地であり、京都の鹿苑寺金閣、平泉の中尊寺金色堂などの国宝の建造物の修理修復に浄法寺漆が採用されるなど、その高い品質には定評があり、日光東照宮の「平成の大修理」では現在も浄法寺漆を使用いただいています。また平成 27 年 2 月に、国宝や重要文化財の修理修復においては、原則として国産漆を使用することを義務づける文化庁の通知が出され、平成 30 年度からは、国産漆 100%の使用方針となり、このことは、国産漆生産体制の大転換となりました。

今回協定を締結する株式会社小西美術工藝社は、300 年以上の歴史を持ち、平泉の中尊寺金色堂、日光東照宮陽明門など国宝・重要文化財の補修を手がける業界最大手企業です。

平成 27 年 11 月に開催した二戸市合併 10 周年記念式典の際には小西美術工藝社のデービッド・アトキンソン代表取締役社長※から「浄法寺漆の可能性」と題して特別講演いただきました。また、同社は「漆工は木を植え、山で漆を掻くことから始まる」という理念のもと、サプライチェーンの確立を目指し、漆掻き及び自社林造成事業を目的とした二戸支社を平成 28 年 10 月に設立し、現在 4 名が在籍しています。

今回の協定は、二戸市総合計画および二戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進、日本の文化と伝統を守っていくための浄法寺漆産業の推進に取り組んでいくことなどを盛り込んだ内容となります。また、今回の連携協定のほか、(株)小西美術工藝社の二戸市内における新しい事業展開発表及び記者会見があります。

※デービッド・アトキンソン氏 イギリス生まれの金融アナリストという経歴を持ち、平成 23 年に小西美術工藝社代表取締役社長に就任、平成 27 年には政府が観光立国を推進するために設置した「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」委員、平成 29 年には日本政府観光局特別顧問などの要職につくほか、「新・観光立国論」「国宝消滅」「新・生産性立国論」などの著書多数。